

令和7年度 第1回甲賀市総合教育会議 議事録

- 1.開催日時 令和7年6月10日（火）
開会 14時00分
閉会 15時00分
- 2.開催場所 甲賀市役所4階 教育委員会室
- 3.議題 甲賀市立小・中学校の再編について
- 4.出席委員 岩永市長、立岡教育長、野口教育長職務代理者、松山委員、池田委員、青木委員
- 5.事務局員 (1) 教育委員会事務局
教育部長、教育委員会事務局次長（再編担当）、
同次長兼課長（学校教育担当）、学校教育課長、
同課学びの多様化推進室長、教育総務課長、
同課教育環境整備室長、主査
(2) 総合政策部
総合政策部長、市長公室長、総合政策部次長、
同次長（ICT推進担当）、同次長（危機管理担当）、
政策推進課長、同課長補佐、同係長
- 6.傍聴者 なし

○事務局

ただいまから、甲賀市総合教育会議を開催いたします。本日の総合教育会議は甲賀市総合教育会議設置要綱第7条に基づき開催させていただきます。本日傍聴につきましては3名の席を用意しております。現在0名の受付でございます。それでは、はじめに甲賀市民憲章を唱和いたしますので、ご無理のない範囲でご起立をお願いいたします。

【甲賀市市民憲章唱和】

○事務局

それでは、開会にあたりまして、本会議の議長を務めさせていただきます岩永市長よりご挨拶を申し上げます。

○岩永市長

皆様こんにちは。大変忙しい中、今日は令和7年度の第1回甲賀市総合教育会議にご出席いただきありがとうございます。また日頃から教育分野を始め本市行政の推進に多大なるご理解とご支援賜ることをこの場を借りて御礼を申し上げます。

昨日から梅雨入りをいたしました。いよいよ本格的な梅雨を迎えるという事で、子どもたちの安全もしっかりと確保していかなくてはなりませんし、また梅雨が明ければ本格的な夏がやってまいります。特に、水辺の活動等には十分に注意をしながら、安全安心な事業の推進に努めていくべく引き続きのご協力をよろしくお願いいたします。

そして、本年の4月からは大阪関西万博2025が始まりました。こちらの方も信楽高校や信楽中学校を中心に、信楽焼と万博との連携で活躍をしていただいていることを非常に嬉しく思っています。ここで様々な甲賀市が関与するイベントを準備いただいておりますし、しっかり信楽焼のみならず、お茶や忍者、薬そして東海道等について、幅広く本市のPRにしっかり活用し努めてまいりたいと思っています。

そして、国スポ、いよいよ大会間近となってまいりました。教育委員会事務局の皆様方を中心に、連日準備にご尽力いただいていること改めて御礼を申し上げたいと思います。しっかりと選手の皆様方をお迎えし、また甲賀市のPRにつながる、レガシーを残せる大会として準備を進めていきたいと考えておりますので、ご協力をお願いしたいと思います。

さて、今年度より、第2次甲賀市総合計画第3期基本計画がスタートいたしました。特に、人口減少対策、国が予測する人口減少のスピードよりも早く人口が減少していくと、その影響は特に中山間地域、地方に多大なる影響を及ぼす状況となります。

そうした中、甲賀市は若者や子育て世帯に選ばれるまちを重点的な目標とし、将来に渡り、子どもたちに質の高い教育環境をしっかりと提供していくための取り組みが重要性を増してくると考えております。

そうした中で、少子化による児童生徒の減少に伴う小学校の小規模化が進んでいます。現

在、教育委員会におかれましては、子どもたちの教育環境をより良いものとするために、きわめて小規模の学校を対象とした学校再編を進めていただいているところであります。

本日の総合教育会議は、この学校再編を議題とさせていただきました。非常に重いテーマであります。この学校再編は教育現場のみならず、地域においても極めて重要な取り組みとなっておりまして。

ぜひ、本日は教育委員会また市長部局が連携して今後進めていく必要があると思っておりますので、忌憚なきご意見を委員の皆様方からいただき、活発な議論になるようお願いを申し上げ、冒頭ご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局

続きまして、議事進行をさせていただきます。甲賀市総合教育会議設置要綱第4条第1項により議長は市長が行うことになっておりますので、市長、議事の進行をよろしくお願いいたします。

○岩永市長

それでは、早速議題に入らせていただきます。先ほど申し上げましたとおり、本日の議題は、「甲賀市立小・中学校の再編について」となっております。まずは、事務局から資料説明をよろしくお願いいたします。

○事務局

(資料に基づき説明)

○岩永市長

ただ今、事務局から資料の①、③、④、⑤について説明がありました。事務局からの資料説明について、不明な点があればご質問ください。いかがでしょうか。

○松山委員

資料④についてですが、学校再編に向けた推進体制について説明を受けました。推進体制の方向性は理解しているのですが、資料④の中に、資料⑤で説明いただいた内容が組み入れられているのか確認させていただきたい。

○事務局

ありがとうございます。おっしゃっていただいたとおり、体制は資料④で説明させていただいた方針は資料⑤で述べており、セットとしてとらまえていただければと考えております。

○岩永市長

他に不明な点が無ければ、意見交換に移りたいと思います。よろしいでしょうか。

それでは意見交換に移りたいと思います。

○青木委員

資料⑤の1.(4)についてですが、学校の再編で削減できた分を地域にまわしていくという考えを市は持っておられるのでしょうか。削減分を地域に還元するという考えなのか、単なる意見として捉えるべきなのか、市の方向性を知りたいです。私は、例えば信楽地域の小学校が統合しました、学校予算にかかる経費が減った分を信楽町に回す、というような考え方はあまりしていないと思うのですが、そのような考え方はあるのでしょうか。

○事務局

地域の方からは、学校再編に協力してきた中で、人口減少という状況も踏まえ、地域にもう少し還元してもらえないだろうかという声がありました。これについては、今後の検討課題であり、しっかり受け止めながら、地域づくりを進めていきたいと考えております。今後、推進体制の中でしっかり議論していきたいと考えております。

○事務局

今、総合政策部の方から維持管理という視点で予算の考え方を示していただいたと思うのですが、教育委員会としましては、信楽中学校区を学校再編のモデル校として位置付けて考えておりますので、今日まで積み上げられた各小学校の特色ある教育を一つに再編して、小中一貫教育の中で展開していきたいと考えています。教育委員会の予算が下がるのではなく、維持して更に魅力のある取り組みを展開していくため、市長部局との調整をさせていただきたいと考えております。

○岩永市長

令和8年度からの自治振興交付金の見直しで加算するという話は少し聞いていますが、その辺りはいかがでしょうか。

○事務局

現在、全体的な予算があるわけですが、自治振興交付金の中で見直しを図れるところがあるのか考えておりますし、別に、草刈など実際の地域の意見も聞いております。もう少ししっかりとフォローし、まとめていきたいと考えております。自治振興交付金についても、一定見直しをかけながら進めていこうと考えております。

○岩永市長

まだ決まっていないということでしょうか。

○事務局

まだ詳しくは決まっておりません。

○岩永市長

私の認識でありますが、削減できたからお金をという話ではなく、閉校によって生まれた新たな課題、例えば草刈りなど、閉校したエリアについてはフォロー・サポートが必要なんじゃないかと考えています。

削減分をそのまま、その地域に特に事業が何もないのに、地域にとにかく予算をつけるという話はないのかなと思います。

○野口委員

経費の面で色々みなさまからご意見を聞かせていただきましたが、再編後も教育委員会と市長部局との協働により学校や地域でどのような新しい動きがあるのかを情報共有していただきたいと思っております。今年の土山小学校の入学式に行ったときに、先生方が1年間のプログラムを示され、鮎河小学校に子ども達全員の春の遠足を企画されていました。魅力あるプログラムづくりの話で廃校になった後も、いろいろとやってくださっている、という気持ちを地域や関係者の方々みなさんに持ってもらえる事が大事だと思います。

○野口委員

総合教育会議に出た中で初めて、再編について話し合いがされたことは、嬉しくて画期的だと思います。教育委員会の中では、色んなことで話し合ってきましたが、協働で話し合えるということに意味があると思います。昨日の厚生労働省の発表によると、昨年度の子どもの出生数が70万人を下回りました。出生率が下がって行く中で、今は1.15という出生率は、本当に深刻な状況を市民全体でシェアできるのではないかと、再編を前向きに考えていくために、地域の労働人口が急減し、将来誰が補償するのか、若者の将来も補償が大変な中で、教育委員会としても、市民としても、色んな資源を総動員して、教育で言えば子どもの将来の豊かな可能性を今こそしっかり考えるという切実な現状であると認識しております。

そういう中で、第2次甲賀市小中学校再編計画のたたき台を読ませてもらいました。いろんな面で、特に市が考える未来像ですね、「あいこうか、いつも暮らしに幸せを感じるまち」その中で教育をどうするのか、甲賀市の中でどうするのかを具体的に書いてあり、私たち市民としても、しっかり自分のものにし、私自身もしたいなと思っております。

先ほどお話がありましたが、新しい学習指導要領は本当に私たちの後押ししてくれるので力強いです。魅力ある子どもたちが行きたくなるような学校づくりについてや、それから、甲賀市の教育の中でも、時代を生き抜く力をどうするかという点で、協働でお互いに子ども

同士、主体的な学びと協働でみんなが高め合って、ディスカッションの力も先生も一緒にはいってもらってつけていくことで子どもたちの将来を切り開いていける可能性が生まれるということがこの再編計画の中で盛り込まれています。

再編計画のたたき台の主なポイントの中で、4番と5番、このあたりも非常にインパクトがあります。特に、5番は学びの多様化推進室が教育委員会にできましたが、市全体で考えたときに、特別な支援を受けている子どもたち、不登校の子どもたち、外国人支援・日本語指導が必要な児童生徒たちをインクルーシブに包摂し、みんなの学ぶ権利があると包摂した考えが、この再編計画に盛り込まれており、誰が聞いても色んな悩みを持っている保護者の方々にとって、とてもインパクトがありますので、もっと強調したいと思います。

タスクフォースは、すごい力だと思います。行政の中で協働、部局横断的な取り組みに加え、私たち市民もそのタスクを持っています。市民同士の意識が大事です。私たち自身ももっと色んな意見を出しあってお互いの考えを共有したいと思います。

小中一貫の教育の取り組みは非常に大事だと思いますが、更にその前、保育園・幼稚園の教育が大事だと言うのは、学力だけではなく、非認知能力は小さいときにこそ育つので、小中一貫も大事ですが、その前も考えているということも強調していただきたいです。

○岩永市長

ありがとうございます。

○事務局

再編につきましては、単に学校を統合させるっていうだけではなくて、あくまでも今後の子どもたちの将来を見据えた新しい学校がどうあるべきか、より良い教育環境の構築という部分に主眼を置いておりますので、学校を再編するのと併せて、特別な教育的支援が必要な子どもの対応とか、小中一貫の新しい教育のあり方という部分をセットで考えていくことを思っております。単に学校を統合するだけではなくて、将来の甲賀市の学校教育がどうであるかを今後も追求していきたいと考えております。

○岩永市長

その他、いかがでしょう？

○松山委員

学校再編については、2つの観点から、気になっていることがありまして、1つは学校サイドを見た場合の話と、地域を見た場合の話です。

まず1つ目の学校から申し上げたいのですが、野口委員も総合教育会議の場で学校再編について協議することは非常に有意義なことだとおっしゃいました。私たち教育委員会の中でこれまで何度も学校再編について、実務レベルでのことを色々伺って、お話を聞

かせていただきました。ただ、今日の会議の中では、その実務的な内容ではなく、もっと市政の中の、教育に関する哲学とかそういうものを、みんなで話し合うべきではという思いで今日は出席させていただいております。そもそも市は、納税者からの税金で市政を全て担っているわけで、その中の一つとして教育行政があって、市は教育行政については教育委員会に専門的なものとして任せます、ということになっていると思います。教育のことを考えたときに、前回の総合教育会議の場で、教育基本法とか、甲賀市教育振興基本計画の話をさせていただいて、公教育というものがどういうものなのかという話もさせていただいて、私は公教育というのは人材育成の場であると考えていますというお話をさせていただきましたが、市としては、まちづくりにこういうビジョンを持ってやっています。人材育成には、このような人材教育のビジョンを持っていて、こういう人材育成をしていきたいので、そういう方向性で行くんだということで税金を使ってやっていくということになると思います。大切な税金を使ってやっていくにあたっては、俯瞰的に、長期的な目で、人材育成をどういうふうにしていきたい、どういう人材を将来育てていきたいかという視点から再編計画を考えていくべきだろうなと思っています。まちづくりを長期的な目で見ると、何年後かにはそのまちづくりを順番に担当していつもらわれないといけない人材である子どもたちをどのように育てていくかという観点から、近視眼的・短期的視点でなく、長期的観点で再編計画も考えるべきと考えています。

土山町の話になりますけれども、何十年も昔に、町にお金がなくてなかなか苦しい時代に、山に木を植えて、その木を売って何とかしたっていう時代背景があります。本当に昔は、お金もなくて貧しくて、親としては子どもに家で農業の手伝いをしてもらいたい、小学校の子どもでも農業を手伝ってよ、と言いたかったであろう時代に、それではダメなので、これから子どもに教育をしていくための学校を建てるお金の足しにするために、山に木を植えて育ててから、それを売ってお金にして、学校を建ててきたと聞いています。木を植えていれば、何年か後に売却することで、教育資金を捻出することができますし、そのように昔の人は考えて教育に活用してきた制度もあったそうです。現在では、財産区がその役割を担っておられ、甲賀町でも同様のことが行われていたと聞いています。昔、お金がなかった時代に工夫して子どもたちのために教育資金を捻出してきたように、私たちも子どもたちのために資金を捻出していく姿勢でいたいと思います。

部長もおっしゃったように、学校の数の問題ではなく、子どもたちにどのような教育が必要かを考え、現代社会に沿った観点で物事を進めていきたいと思っています。お金がないのは甲賀市だけでなく、他市も同じです。小さな単位では家庭でも、同じようにお金がないと家ではお母さんが言っているかも、お父さんも言っているかもしれないけれども、お父さんのお小遣いを減らして、仕事を掛け持ちして、それでも子どもにこの習い事をさせてやりたい。この学校に行きたいっていう時にはその学校に進ませてやりたいという様にどこの家庭でもお金を工面して工夫して、教育につき込んでおられる家庭が多いと思います。市としては、こういう教育をしたいから、という観点で再編を進め、学校が一つ必要なら、学校一

つ分のお金が必要ですし、ここには2つ要るということであれば、市に教育予算として、予算がない中の予算から、教育予算として取って欲しいと思っています。教育予算は経費ではなく、将来への投資、将来育っていく子どもたちへの投資、将来の甲賀市への投資という観点から再編計画を考えていただきたいと思います。

地域のことも大事だと考えています。資料⑤の1(2)「学校施設等の活用に関する地域の認識について」で気になった点があります。地域の方々の学校施設に対する思いは非常に強く、ネガティブな話ではなく、ポジティブな話題で進めるべきだと書かれていました。ポジティブな提案をしたらいいと思っていらっしゃるわけではないと思いますが、私が必要だと思っているのが、地域の方々への敬意を示すことが重要だと思います。例えば、長年草刈りをしたり、学校をきれいにしたり、子どもたちにピアノを寄付してくれたりなど、学校の子どもたちが良い教育を受けられるようにしてきた地域の方々に対する敬意が必要ではないかと思います。ポジティブな提案をしましょうではなくて、敬意をはらっていれば、自然とそういう提案になるのではないかと思いますので、地域の方への敬意と一緒に、学校教育とはどうあるべきかという二本立てをやってほしいと思います。市長部局に対し、資料を入れてほしいと言ったのは、学校教育に対しては、人材教育の観点からしてほしい。それから地域に対しては、残った学校をどうするかではなく地域づくりをどうするのかの観点を同時に入れてほしいという意味で、一番最初に申し上げたのですが、今日いろいろ資料を読ませていただいて感じました。

○岩永市長

大きく2つ、どのような人材を育てていきたいのかという観点をもってこの再編をしっかりやっていくべきだということと、地域に対しての敬意、100年以上守ってこられたことに対し、再編で終わりではなく、築き上げてきていただいた思いをどのように引き継いでいくのかを含めて、勉強も必要ですし、敬意も必要という話を先日も内部協議の中でしていたところです。このあたり、どうでしょうか。

○事務局

まず、「どのような人材を育てていきたいのか」については、教育大綱に示されている教育方針「たくましい心身と郷土への誇りをもち、未来を切り拓く人を育てる」が大前提です。さらには、その中に教育目標として「ともに学び、ともに育ち、ともに生きる」「豊かな心と健やかな体を育む」「郷土への誇りをもち、世界に発信できる人を育てる」が大きなコンセプトでぶれることなく、これまでから進めてきたことであり、これからも追求してまいりたいと考えております。その中で、社会経済情勢や少子化などの環境の変化の中で、これらの目標を達成するには、どのように学校運営を行うべきか、その考え方が再編方針に盛り込まれていると考えております。あくまでも教育委員会事務局としては、より良い教育環境がどうあるべきかを、今後も追求してまいりたいと考えております。

○事務局

地域との関係については、長年築き上げてきた伝統を尊重し、地域の先人の皆様への敬意を払い、郷土をどう維持させていくかに触れながら、地域の意見に耳を傾け、真摯に向き合ってまいりたいと考えております。

○岩永市長

非常に大切な2つの視点だと思いますし、これらを軸に、進めていかなければ、地域のみなさま方の機微に触れるような説明にならないと思いますので、勉強するところは勉強しなおして、それぞれの地域の歩みに寄り添って敬意を持って対応していくべきと思っております。財政については、市長就任以降、頑張って教育予算の確保に努めてまいりました。自分がお茶漬けをすすりながら漬物で夕食を済ませていても、子どもたちには腹いっぱい良いものを食べさせてやりたいというのは日本にある昔からの美德であり、大人の責任だと思いますし、国づくりそのものの根幹となる価値観をしっかりと持ちながら、極力、子どもたちにお金をかけて市政運営にあたらせていただきたいと思います。

○池田委員

人口が増え、学校も増える、子どもが増えることは、良いことだと思いますが、人口が減って子どもが減っていくことは良いことではないというベースの中であるので実行する時に大変さが伴ってくると思います。先ほど、皆さんからお話いただいた敬意や子どもの視点、理念的なこともぶらさず進めていくことが一番大切だと思います。例えば、子どもに対して親が「お金がなくて、これは買えないのよ」という状況で「代わりにこれ買ってあげるわ」と言うと、子どもは「お母さん大変だ」と分かります。その時に適当に拾ったものではなく、しっかりとした理念、敬意、気遣い、努力、公平さがあれば、「代わりにこれを」と言っている気持ちが良く伝わり、「これでいいわ」という回答が得られるでしょう。どちらにしても、私は殿（しんがり）の役割、さがりながら戦う大変さの中、どうしていくのかということしか考えられないと個人的に思います。そのような中で、できるのかできないのかというところというと、学校施設の活用について、市民からすると学校敷地のエリアがはっきりとわかっているので、教育委員会管轄だから活用の幅には限度があるだろうと見えてしまうけれど、分割して活用する柔軟さが必要な場合もあるかもしれないので、そういう声を聴くときに、教育委員会と市長部局が前もってどういうことを言われても答えられるように努力して詰めていただきたいと思います。

○岩永市長

とにかく努力を大切に、一生懸命前を向いて理念をぶらさずやっていくということを持って臨めば、どんな相談があっても関係性を構築できるということですね。

○青木委員

保護者に対する再編の必要性の説明は、教育の人材育成を丁寧に説明することが大切だと思います。意見聴取されて、小学校別の資料を少し読みましたが、コスト削減や小規模校存続の重要性が述べられており、丁寧な説明の必要性を感じました。

資料のポイント3「閉校後の施設のあり方が今後の地域づくりに資するよう」という点について、地域づくりという言葉が地域によって考え方が違うため、腹を割って話し合い、市としてのイメージと地域住民のイメージとが一致する地点を見つけ出す努力が難しいけれども大事だと感じます。

○事務局

地域によって、人によっても考え方が違います。丁寧に寄り添いながら耳を傾けながら、意見を交わし、活用について対話を重ねながら、より良い方向性を見出していきたいと考えております。

○野口委員

丁寧な説明には、人間関係、繋がりを大切にすることが重要です。特認校は小規模校ですが、第三小学校と中部小学校は以前から校長が変わられても交流があります。再編プランを進めるプロセスの中で、合同で計画的に進めていくには人間関係が重要です。小規模校の良さを生かしつつ、学校の伝統や歴史を大事にしながら、効果的な教育活動に再編しても生かしていく、包摂性をもった方向性なのか確認したいと思います。

もうひとつ、教育大綱の中に再編という言葉が出てきたことはありません。前回の総合教育会議では、そこは基本的には触りませんということでしたが、それを今後、教育大綱の中に再編のニュアンスを含めて入れていかれるのか確認します。

○立岡教育長

学校の歴史や伝統については、多羅尾小学校のオペレッタ、朝宮小学校のお茶、交通安全の取り組みなどそれぞれの学校の取り組みなどを再編校のカリキュラムに位置づけ、6年間で5つの学校で取り組んできた伝統や全ての活動を経験して中学校へ進学できるようカリキュラムを作って取り組み、価値の伝承をしていきたいと考えています。

○事務局

まさに、包摂という部分に尽きるのかと思います。

特色ある地域学は残していかなければならないと考えており、開かれた大きな議論の中でみんなに知っていただき、着実に進めていきたいと考えています。

○事務局

今、特認校というフレーズが出ましたが、小規模校・きわめて小規模の学校には学校に行きづらい子どもたちも実際には行っているという現状があります。教育委員会といたしましては、昨年、学校教育課に学びの多様化推進室を設置したり、各学校にスペシャルサポートルームを設置したり、不登校の子どもたちがいかに学べるのか、市長のおっしゃる子どもの可能性無限大というところと、教育として最適かという観点で進めてきます。今の再編、小中一貫教育という一つの大きなテーマと、全ての子どもたちが学ぶ機会をどう提供していくのかという学びの多様化の部分で、どう押さえていくかが柱となってくるかと思ひますし、教育委員会としても、過去から積み上げてきている部分がありますので、ビジョンを明確にし、見える化をしていく中で、そういった不登校の子どもたちをどう応援するのか、チャンス逃がさないよう考えていく必要があると内部で協議しております。今の小中一貫教育という一つのフレームになる考え方と、その中でしっかり教育を提供していくけれども、どうしても辛い子どもたちが出てくるはずですので、教育委員会としてそこをどう受け止めていくのか、教育支援センターの拡充を進めてきておりますが、さらにパッケージ化をして、例えば、子ども家庭センターでも第3の居場所ということで民間の子どもたちの受け皿もできてきておりますので、そういうところと連携していきながら、最終的には子どもたちが学んで自分の可能性をつかんでいくようにしたいと考えています。今後、教育委員のみなさまもご意見を伺いながら、市長にもご提案させていただいて、進めていければと思っています。

○事務局

現状の大綱の中では、ご指摘の通り、「再編」という言葉は示されていません。大綱につきましては、昨年度、教育委員の皆様の中でもご議論いただいた中で、この大綱で進めていくことを一定協議いただいたものと考えております。やはりこの再編を進める根拠としては新しい学習指導要領がメインになってくるのかなと思ひますので、これに対応した甲賀市の目指す学校教育の実現という部分の中で、進めさせていただきたいと思っております。現状で言いますと、教育大綱に「再編」という言葉を加えるのではなく、新しい学習指導要領に基づいた甲賀市のめざす学校教育の実現のための再編計画だという位置づけで進めさせていただきたいと思っております。

○野口委員

ありがとうございます。最近、外国の子どもたちや保護者の方々から相談が多い中、再編のことなど、様々な話がでてきて多様な人たちが甲賀市で増えているので、そういうことにも対応できる包摂性のある考えが持てたので良かったです。

○野口委員

学校再編後のイメージを見ていたのですが、まず市長部局の業務では総合政策部の方ですが、市民活動推進課、地域市民センター、マネジメント推進室も含めて動いていく行政内連携の話ですが、共生という広い意味では地域共生社会推進課もちろん、福祉だけでなく、共生社会の実現がしっかりと書いてあるので、関係課との連携はどうでしょうか。

○事務局

より良い地域共生社会について、今回の再編では、専任チームを立ち上げている通り、チームを編成しながら進めていくというような形を考えています。

共生社会というお話がありましたが、甲賀市についても、地域共生社会の実現に向けて、幅広く全庁体制で、誰一人取り残さないという考え方を中心に据え、福祉部局だけとかそういうことではなく、一体となって、市民の皆様をより良い暮らしに結びつけられるよう取組を進めています。

○岩永市長

今後の活用について、部局横断で前向きにやっていく進め方のイメージとかの補足をお願いします。

○事務局

学校に対する地域の意識は高いものがあり、学校が無くなるかもしれないという事は、子どもたちの減少、人口減少に伴ってですが、地域の方は、地域を維持していくとか、地域の活力を戻していくという強い思いをもっておられます。これまで地域共生社会の実現は福祉分野の視点がありましたが、暮らしに線引きはないという考えのもと、例えば獣害、草刈とか、地域の地域振興会の役員の負担など、様々な課題に対し、様々な部局が連携して取り組んでいくことが重要であり、今後、組織の再編も絡めながら、取り組みを強化し、学校再編と合わせて進めていこうと考えております。

○池田委員

推進体制を見ていると、例えば、保護者がどこかで説明を受けるときに、どういうときに敬意がない、努力していない、と感じるかということ、話し手の方が代表感覚で話をしてないときだと思います。推進体制のことを全部把握した上で話している感覚があれば、努力が必要ですし、責任持って話をしていると感じますが、「担当がいますので、代わります」、私は全部を把握していないんだというのが見えると努力していない、当事者感覚がなく、真摯になってないと受け取られます。努力するポイントとしては、連絡調整会議などで教育委員会と市長部局でお互いにどっちも同じ話ができる、市民から見たら、説明している方は市の代表だと思って聞いていますから、そういう意識を持っていただくための努力が必要だと思います。

○青木委員

地域づくりの中の視点として生涯学習という視点を必ず加えて地域づくりをしていただけたらと思います。

○市長

はい、大変貴重なご意見をいただきありがとうございます。進める方向としては理解いただいている中で、100年以上にわたって積み上げてこられた地元地域の、一日一日の積み重ねにしっかり敬意を払えば、担当者一人一人がしっかり認識して、将来に責任を持って進めていきたいという覚悟を持ってやっていくべき、という貴重な意見だったと思います。本当にありがとうございます。この再編につきましては、子どもたちのとりまく環境を教育委員会が担い、市長部局が地域づくりと課題解決という役割を担うわけですが、お互いの動きについて共通の認識を持ちながら、両輪でしっかりと進めていくことを心がけていきたい、私自身も先頭に立って頑張っていきたいと思っています。

○事務局

それでは、委員の皆様、ありがとうございました。
本日の議事録につきましては、事務局で作成いたしまして、後日皆様にご確認を頂きたいと思っておりますので、よろしくお願いします。それでは、閉会にあたり、立岡教育長よりごあいさつをお願いいたします。

○立岡教育長

本日は、皆様貴重なご意見をいただきありがとうございました。市長部局と一緒に考えさせていただけた機会はありがたかったです。先ほどもありましたけれども、敬意であるとか、お互い熟知して対応していくことなど、大事なキーワードを皆さんからたくさんいただいたと思います。私も学校の様子を聞かれる時に、どんな学校になるのというようなことを聞かれる時があります。そんな時に、こんな具体的な夢をどんどん語っていきたいと思っていますし、跡地についてもやはり同じであり、そこでどんな活動が今後展開されていくのかというあたり、具体的なイメージを持って進めていただければありがたいし、一緒にそうしていきたいと思っています。また、子ども達に対して投資だと言っていたいただいた予算の関係でも、市はこれまでから複式解消という事で、県下では他に例をみないほど小規模の学校にも丁寧に対応していただいております。先ほども事務局からあったとおり、投資に見合うだけの学校を作っていかなければいけないと思っています。新しい学習指導要領の話も出ましたが、その中で、新しい時代に求められる学びというキーワードも出てまいります。新しい時代を切り開く甲賀市の担い手をつくるための教育をしっかり作るための教育も、今後作っていく学校の大きな柱の一つだと考えております。

少し私事になりますが、平成 27 年に再編が始まった時に、その 2 年前に特認校制度を立ち上げました。

その特認校の多羅尾小学校の校長をさせていただいて、小規模校の持っている、あるいは特認校として持っている素晴らしさと同時に、その限界も地域と共にしっかり学びました。また、その後、市内では第 1 号の統合となった土山小学校に山内、鮎河を迎えて取り組みました。さらに、跡地利用には関わられませんでした。それ以外の事前も事後も含めて、いろんな配慮や調整には取り組んでまいりました。学校が統合したあと、地域の方から、学校に関して一つのクレームもありませんでした。それどころか、音楽会で 3 つの小学校の校歌を全員で合唱したり、あるいは組立て体操で集団演技を見せた時に、たくさんの方が涙されました。こんな大きな声の鮎河の校歌を聞いたことがない等、でおっしゃっていただいたことも本当に心に残っています。

そういった誰もが経験できることではないことを経験させていただいた中で、小規模か大規模かというような論点ではなくて、新しい学習環境を作っていくという強い使命感を持って取り組んでいきたいと思っています。質の高い主体的な、対話的な深い学びであるとか、個別最適であり、さらに協働の学習であるとか、あるいは多様な子ども達を包摂するという言葉に合った学校を作っていきたいと思っていますので、今後とも市内一丸となって進んでいけますように、どうぞお力添えをお願いしたいと思います。

本日は、本当に貴重なご意見ありがとうございました。どうぞよろしくお願いします。
ありがとうございました。